

研究雑話 (28)

フランスの障害者教育・福祉事情(十二)・・・スナップ・リーディング分析による日仏比較

藤井力夫

今回は、フランスの小学校における低学年からの落ちこぼれを許さない取り組み、とくに子どものテンポに合わせて学校生活そのものを改善しようとする「修学リズム」最適化の取り組みについてお話ししました。学業不振を曖昧にしないで一年の時から援助しようという教育のあり方が障害児教育の自然な展開を可能とし、養護学校での「生活教育」が初等教育のあり方そのものにも影響を与える。修学リズムの改革はまさに両者の関係の産物とも言える。前号表Aに一週間の週時程(養護学校クラスA)、表Bに修学リズムの編成原理を概括した。小さく見ずらいですが参照していただければ幸いです。日本でも小学校における「生活科」の創設や「ゆとりの時間」など教育課程が改革されました。しかし登校拒否や「いじめ・自

殺」の問題が跡を絶ちません。求めている子どもたちを助けられないようでは障害児教育も歪んでしまいます。自分の力を試すことができる場、それが子どもたちにとっての発達の良い学校です。見ること聞くこと、まわりの世界のさまざまな変化を自分の目と手で調べ納得する。これ自体が楽しい。たとえ障害が重く寝たきりであってもその子なりやり方がある。遅くともその子なりの気づき方で確かめる。統合教育といえどもそれが疎外されてはなんにもならない。

もてる力をその人のやり方でどのように発揮できているか。我々はスナップリーディングという方法を導入した。とても有効な方法。三和荘でも何回か実施。元々は労働科学の疲労分析や作業分析で用いられてきた方法。どこでだれとなにをどの

ようにしているか。興味を向けている対象(B)、人との関わり(C)、手の操作(E)、活動姿勢(H)、その他。五分毎に丁度スナップ写真をとるように記録。表はボーベ養護学校クラスAの中廊に位置する女の子(十三才一カ月)のある日の記録の一部。養護学校の各クラス、平均的な子ども計五人を対象に一週間記録した。この日(一九八五年十一月二十六日)は火曜日で、学校を終え、寮に帰って自由時間の後、十八時から十九時五分まで寮の友だちと市内のアスレチック・クラブに通っている。寮の先生の運転でマイクロスパスで移動。他にも絵の教室(カルチャー教室)に通っている子どもも同乗。クラブでは中学生から成人までさまざまな人たちがそれぞれのメニューで練習。この子は体操グループでまず体育館の中を走り、その後マット運動前転、ロープよじ登り等各三〇分程、専門指導員のもと運動。次号ではこれらの記録の結果からいくつかお話ししたい。

(北海道教育大学教授)

